

助成受給団体名	ふりがな おおほらだいいちく 大原第一区
事業の名称	大原街道不法投棄防止監視カメラ設置事業
実施期間	平成 27 年 8 月 1 日～同 27 年 9 月 1 日
実施した事業の内容 大原地区は、小名浜地区と大原地区を結ぶ市道一級路線「単人・大原線」通称「大原街道」が地区の真中を走り、多くの市民等が利用する重要路線があります。また、東日本大震災に伴う原発事故の影響により、当市の人口は急激に増加するとともに、「大原街道」の交通量も著しく増加しており、これに伴い「大原街道」沿いにゴミの不法投棄も増加傾向で推移しており、地区の衛生環境の悪化など、大きな悩みとなっております。 この為、区役員、防犯協会員が合同で青パトロールを運行し、区内を週2回ほどパトロールをし、防止策を講じてまいりましたが、不法投棄は減少しない状況にあります。 このため、貴地域安全事業のお力をお借りし、防犯カメラを設置し、交通量の多い交差点の監視と不法投棄の撲滅を目指し、地区の皆さまにも環境保全に関する啓発活動をするとともに、監視カメラによる抑止効果を高め、地区の安全とゴミの不法投棄の監視を強化し、安全・安心な住みよい地域づくりに努めて参りたいと考えております。	
事業の成果 大原地区には、東日本大震災後、相双地区から移住者が多く、現時点で約60棟建設され、多くの帰宅困難区域住民の皆さんが新たな新天地を求め、地域との融合を図りながら暮らしており、今後も双方の住民が、大原地区で安全そして安心して暮らせる環境づくりが急務であります。 今般、地区内の70歳代の男性が行方不明となり、警察をはじめ、消防署、消防団、区役員、防犯協会会員、地区住民による搜索活動、その後も区役員等で10日間搜索活動を行い、男性を無事に発見される事件がありました。警察からは、「防犯カメラの映像が搜索の参考になり、今後もこのカメラの映像に期待しています」との評価を受け、設置早々効果をあげることができました。 また、今回の監視カメラの設置により、ゴミの不法投棄の抑止力が高まるよう、パトロール等を並行し実施しながら、不法投棄を著しく減少することができ、住みよい町づくりに期待しているところであります。	
今後の課題 大原第一区は、震災後約600世帯のマンモス行政区となり、また、区の範囲も広いことから、区域を隅々監視し安全・安心して暮らせる環境づくりのため、防犯監視カメラの増設などが必要であると感じております。	

